

市民の会が開く
12周年記念
シンポジウム

医療の良心を守る市民の会

<http://ryousin.web.fc2.com/>

ほんとうのことを知るのが、なぜ難しい?

患者と医療者が
手をつなぐためにすべきこと

テーマ：「精神医療のこれまでと今後を考える」

日時：平成30年7月22日(日) 13:30~16:45

会場：全水道会館 4階 大会議室

文京区本郷1-4-1

JR水道橋駅 東口(お茶の水駅より)下車2分

都営地下鉄三田線水道橋駅 A1出口1分

参加費：無料(カンパをお願いします)

定員：120名(事前登録優先)

交流会：近くの居酒屋 17:30~ 会費：4千円

事前登録時にご参加の可否をご連絡願います

1. シンポジウム

<シンポジスト：あいうえお 順>

岩下 覚さん(桜が丘記念病院 院長)

三枝 恵真さん(東京あさひ法律事務所 弁護士)

長谷川 利夫さん(杏林大学保健学部 教授)

会場から遺族が発言予定

<コーディネータ>

大熊 由紀子さん(国際医療福祉大学大学院教授)

2. パネルディスカッション

<パネリスト>

上記のシンポジストのほかに

永井 裕之(医療の良心を守る市民の会 代表)

主催：医療の良心を守る市民の会

<事前登録先&問い合わせ先>

E-mail: ryousihin0415@gmail.com

Email: hnagai@max.hi-ho.ne.jp

Fax:047(380)9806

〒279-0012 浦安市入船3-59-101 永井方

後援:

患者の視点で医療安全を考える連絡協議会

患者・家族と医療をつなぐ NPO 法人 架け橋

愛する人が
なぜ死んだのか、
わからないの?

医療裁判には、
限界がある
〜

患者に本当のことが
言えなくなってしまう
の?

このままでは患者
と医療者が歩み寄
れない?

患者のためを思って行動した良心的な医療従事者を私たちは守り、物心両面で支えます

医療の良心を守る市民の会 12周年記念シンポジウム

1. 日 時：平成30年7月22日（日）13：30～16：30（13時開場）

2. 場 所：全水道会館（都営三田線 JR 総武線 水道橋駅）

3. 背景と目的

精神病患者に対する患者の人権を無視した治療が多くの医療施設で行われてきました。現在も「身体拘束、隔離、薬の多量投与など」は旧態依然として継続され、特に身体拘束は10年で倍増していると報告（厚生労働省調査）されています。



NHK クローズアップ現代(2018.1.11)資料より

「精神医療のこれまでと今後を考える」をテーマとして、関連の方々からお話をいただき、精神医療のこれまでの状況（課題）を共有して、患者の人権を守る精神医療（診療・治療）について考えるシンポジウムを開催したいと思います。

4. 内 容

1) コーディネータ：大熊由紀子さん（国際医療福祉大学大学院 教授）

2) シンポジスト（各20分以内でのプレゼン）

①医師の立場から 岩下 覚さん（桜が丘記念病院 院長）

②医療現場の立場から 長谷川 利夫さん（杏林大学保健学部 教授）

③弁護士の立場から 三枝 恵真さん（東京あさひ法律事務所）

3) ディスカッション（約60分）

・会場からの質問にも配慮 ・会場から指名発言（的確な方がいる場合）